

令和6年7月14日(日) 施行

第215回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

1	間接経費	2	直接材料費	3	間接労務費
4	間接材料費	5	直接労務費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	620,000	買掛金 現金	600,000 20,000
2	仕掛品 製造間接費	480,000 120,000	材料	600,000
3	仕掛品 製造間接費	350,000 50,000	貸金	400,000
4	仕掛品	680,000	製造間接費	680,000
5	製品	1,850,000	仕掛品	1,850,000
6	現金 売掛金 売上原価	1,500,000 1,500,000 2,500,000	売上 製品	3,000,000 2,500,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？枚	¥	36,580	当月完成品	2,870枚	(¥	861,000)
当月投入	？枚	¥	869,420	月末仕掛品	？枚	(¥	45,000)

加工費

月初仕掛品	？枚	¥	9,070	当月完成品	2,870枚	(¥	1,148,000)
当月投入	？枚	¥	1,174,930	月末仕掛品	？枚	(¥	36,000)

第4問

①	ア	②	エ	③	イ	④	オ	⑤	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#32	#33	#34	合計
月初仕掛品原価	(442,600)	—	—	(442,600)
直接材料費	(12,000)	(48,000)	(65,400)	(125,400)
直接労務費	(181,500)	(350,900)	(72,600)	605,000
製造間接費	(264,000)	(510,400)	(105,600)	880,000
合計	(900,100)	(909,300)	(243,600)	(2,053,000)
備考	完成	完成	仕掛中	

令和6年7月14日（日）施行

第215回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

1. 半導体の製造にともなって発生した水道料金は、製品を製造する際に間接的に発生する費用であるため、間接経費となる。
2. 回路を集積する素材であるウェーハの消費額は、半導体の製造に直接かかる直接材料費となるため、直接材料費となる。
3. 工具による半導体部品の運搬作業に対する賃金消費額は、品の製造に直接携わる工具の賃金ではないため、間接労務費となる。
4. 工具が着用する防塵服の購入代金は、製品の製造に直接かかる材料費ではないため、間接材料費となる。
5. 工具による半導体部品の組立作業に対する賃金消費額は、製品の製造に直接携わる工具の賃金となるため、直接労務費となる。

第2問

1. 素材を購入した場合、材料勘定を用いて処理をする。
また、素材の購入に際し、引取費用を支払った場合は、付随費用として素材の購入原価に含める。

$$\begin{aligned} \text{素材の購入原価} &= @ ¥1,200 \times 500\text{kg} + ¥20,000 \\ &= ¥620,000 \end{aligned}$$
 代金 ¥600,000 は、翌月末に支払うこととした場合、買掛金勘定を用いて処理をし、引取費用 ¥20,000 の支払いについては、現金勘定を用いて処理をする。
2. 製品の製造に着手し、素材を出庫した分については、直接材料費として材料勘定から仕掛品勘定へ、補助材料を出庫した分については、間接材料費として材料勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。
 素材を出庫した分 材料勘定から仕掛品勘定への振替額は、¥480,000 である。
 補助材料を出庫した分 材料勘定から製造間接費勘定への振替額は、¥120,000 である。
3. 当月の直接工による賃金消費額を計上した場合、賃金勘定から、直接労務費は仕掛品勘定へ、間接労務費は製造間接費勘定へ振替える処理をする。

直接労務費の計算

$$\begin{aligned} \text{直接労務費} &= \text{実質消費賃率} ¥1,000 / \text{時間} \times 350 \text{ 時間} ※ \\ &= ¥350,000 \rightarrow \text{仕掛品勘定へ} \end{aligned}$$

※就業時間 400 時間 - 間接作業時間 40 時間 - 手待時間 10 時間 = 350 時間（直接工の加工時間 320 時間 + 段取時間 30 時間）

間接労務費の計算

$$\begin{aligned} \text{間接労務費} &= \text{実質消費賃率} ¥1,000 / \text{時間} \times 50 \text{ 時間} ※ \\ &= ¥50,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

※直接工の間接作業時間 40 時間 + 手待時間 10 時間 = 50 時間

4. 当月の製造間接費実際発生額 ¥680,000 を製品へ配賦した場合は、製造間接費勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。
5. 完成した製品を倉庫に納入した場合、完成品の製造原価 ¥1,850,000 は、仕掛品勘定から製品勘定へ振替える処理をする。

6. 倉庫に保管していた製品を顧客に引き渡し、代金¥3,000,000のうち半分は先方振出しの小切手で受け取り、残額は翌月中に受け取ることとした場合、借方科目は現金勘定と売掛金勘定、貸方科目は売上勘定で処理をする。

又、倉庫に保管していた製品を顧客に引き渡した場合、製品勘定から売上原価勘定へ振替える処理をする。製造原価の20%を利益として製造原価に加算して販売しているので、売価¥3,000,000は製造原価の120%であるため、以下のとおり、製造原価を計算する。

$$\begin{aligned} \text{製造原価} &= \text{売価} \text{ ¥}3,000,000 \div 120\% \\ &= \text{¥}2,500,000 \end{aligned}$$

第3問

月末仕掛品原価と当月完成品原価を求める。直接材料はすべて工程の始点で投入 月末仕掛品の評価は平均法

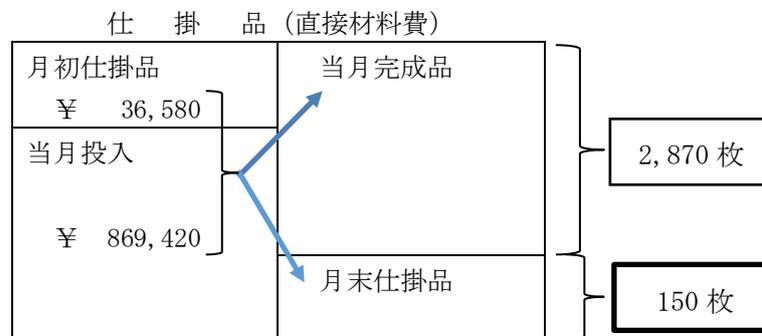
【原価計算表による解説】

原価計算表					単位：円
	数量	直接材料費	換算量	加工費	合計
月初仕掛品	120 枚	36,580	30 枚	9,070	45,650
当月投入	2,900 枚	869,420	2,930 枚	1,174,930	2,044,350
合計	3,020 枚	906,000	2,960 枚	1,184,000	2,090,000
月末仕掛品	150 枚	① 45,000	90 枚	② 36,000	81,000
当月完成品	2,870 枚	861,000	2,870 枚	1,148,000	2,009,000

① $\text{¥} 906,000 \times 150 \text{ 枚} \div 3,020 \text{ 枚} = \text{¥}45,000$

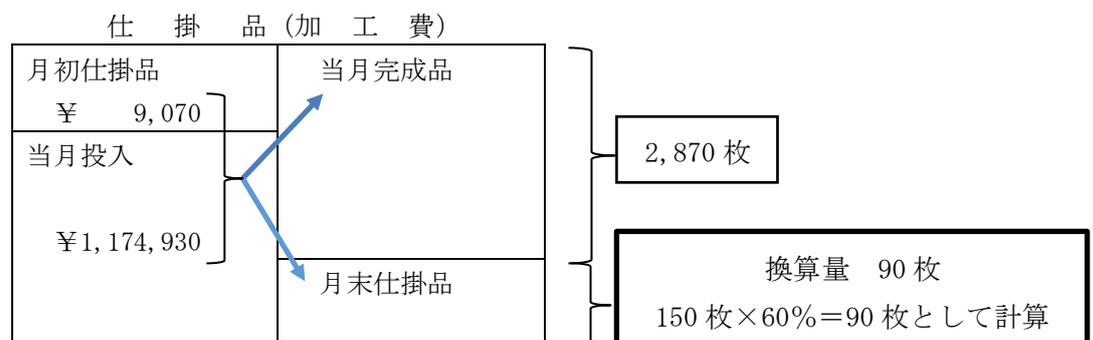
② $\text{¥}1,184,000 \times 90 \text{ 枚} \div 2,960 \text{ 枚} = \text{¥}36,000$

【ボックス図による解説】



月末仕掛品原価： $(\text{¥}36,580 + \text{¥}869,420) \div (2,870 \text{ 枚} + 150 \text{ 枚}) \times 150 \text{ 枚} = \text{¥}45,000$

当月完成品原価： $(\text{¥}36,580 + \text{¥}869,420) \div (2,870 \text{ 枚} + 150 \text{ 枚}) \times 2,870 \text{ 枚} = \text{¥}861,000$



月末仕掛品原価： $(\text{¥}9,070 + \text{¥}1,174,930) \div (2,870 \text{ 枚} + 90 \text{ 枚}) \times 90 \text{ 枚} = \text{¥} 36,000$

当月完成品原価： $(\text{¥}9,070 + \text{¥}1,174,930) \div (2,870 \text{ 枚} + 90 \text{ 枚}) \times 2,870 \text{ 枚} = \text{¥}1,148,000$

第4問

- ア. 当月に消費された買入部品の原価
→ 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- イ. 当月の間接工賃金消費額
→ 賃金勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- ウ. 当月に顧客に引き渡された製品の原価
→ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわす。
- エ. 当月に消費された補助材料の原価
→ 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- オ. 当月に完成した製品の原価
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわす。

- ① 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち直接材料費を意味している。よって、当月の買入部品消費額をあらわしていることになるため、 **ア** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 材 料
-----------	---------

- ② 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、当月に消費された補助材料の原価をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 製 造 間 接 費	(貸) 材 料
---------------	---------

- ③ 賃金勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
よって、当月の間接工賃金消費額をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 製 造 間 接 費	(貸) 賃 金
---------------	---------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわしている。
これは、当月に完成した製品の原価の振替えを意味している。よって、当月に完成した製品の原価をあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわしている。
これは、製品を顧客に引き渡した際に、製品の原価を売上原価勘定へ振替えたことを意味している。よって、当月に顧客に引き渡された製品の原価をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

第5問

材料元帳

(先入先出法)

材 料

(単位:円)

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	(85)	800	(68,000)				(85)	800	(68,000)
	2 出庫(#32)				15	(800)	(12,000)	(70)	(800)	(56,000)
	5 出庫(#33)				(60)	(800)	(48,000)	10	(800)	(8,000)
	12 仕 入	150	820	123,000				10	(800)	(8,000)
								150	820	123,000
	23 出庫(#34)				(10)	(800)	(8,000)			
					70	(820)	(57,400)	80	(820)	(65,600)
	30 次月繰越				80	(820)	(65,600)			
		(235)		(191,000)	(235)		(191,000)			

製造指図書#32 <前月より製造着手 当月完成>

 月初仕掛品原価 ①「2. 当月の月初有高 仕掛品(#32)」記載の通り 442,600円

 直接材料費 ②「4. 当月の材料元帳」の作成より 6/2に出庫した金額 12,000円

 直接労務費 ③「原価計算表」の直接労務費合計と「5. 当月の直接工による直接作業時間の内訳」より
 $605,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 150時間 = \underline{181,500円}$

 製造間接費 ④「原価計算表」の製造間接費合計と「6. 製造間接費の配賦基準」により
 $880,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 150時間 = \underline{264,000円}$

 合 計 ①442,600円 + ②12,000円 + ③181,500円 + ④264,000円 = **900,100円**
製造指図書#33 <当月より製造着手 当月完成>

 直接材料費 ①「4. 当月の材料元帳」の作成より 6/5に出庫した金額 48,000円

 直接労務費 ②「原価計算表」の直接労務費合計と「5. 当月の直接工による直接作業時間の内訳」より
 $605,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 290時間 = \underline{350,900円}$

 製造間接費 ③「原価計算表」の製造間接費合計と「6. 製造間接費の配賦基準」により
 $880,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 290時間 = \underline{510,400円}$

 合 計 ①48,000円 + ②350,900円 + ③510,400円 = **909,300円**
製造指図書#34 <当月より製造着手 当月仕掛中>

 直接材料費 ①「4. 当月の材料元帳」の作成より 6/23に出庫した金額 = 65,400円

 直接労務費 ②「原価計算表」の直接労務費合計と「5. 当月の直接工による直接作業時間の内訳」より
 $605,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 60時間 = \underline{72,600円}$

 製造間接費 ③「原価計算表」の製造間接費合計と「6. 製造間接費の配賦基準」により
 $880,000円 \div (150時間 + 290時間 + 60時間) \times 60時間 = \underline{105,600円}$

 合 計 ①65,400円 + ②72,600円 + ③105,600円 = **243,600円**